



日本共産党区議会議員

こんにちは
伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-7-23

足立区役所 電話3880-5111 (内線4650~4654)

日本共産党区議団 直通3880-5770

<http://www5.famille.ne.jp/~k-itou/index.html>



住民の方々と懇談する大島芳江区議(奥左側)と渡辺やすのぶ都議(その右) 6月8日桑袋にて

足立区議会 6月定例会はじまる

6月10日~25日

第二回足立区定例会が六月十日からはじまりました。近藤区長は所信表明で、後期高齢者医療制度が始まった四月一日以来一日300件を超える区民から問い合わせが殺到し、全力あけて対応した。説明会を実施した、「しかしながら制度の根幹がギリギリまで二転三転し」、大臣発言などあまりに唐突で区民からの質問に後手後手に回ったのが実情だったと述べ、「一連の国の取り組み体制や発言は、疑問を呈せざるを得ません」区として、区長会などを通じて「国に働きかけてまいる」といいたいなどと挨拶しました。

六月十一日行われた日本共産党の代表質問は、後期高齢者医療制度について、「施行後すでに2ヶ月以上経過したが区長はどのように改善要望したのか、区として国に改めて廃止の意思を表明すべきだ」と区長の政

治姿勢を迫りました。

現代版「うばすて山」とも言われ、高齢者医療を差別するこの制度の一部見直しで解決できるものではありません。日本共産党は憲法の保障する生存権や法のものとの平等を踏みにじるものであり、撤廃するしか解決の道がない。と区民や全国で怒りが広がっている事態を示し区長に迫りました。

若い時は動労奉仕もやってきたのよ。戦争で苦勞してきたのに国は年寄りをじゃけんにするな!あたまにくるよ。なにが後期高齢者よ!人間長くやってきたから政治の悪さがよくわかる!
(西保木間 Sさん・83歳)



都交通局に要望する右から伊藤区議、大島区議、渡辺都議(6月5日・都庁)

日暮里・舎人ライナーで都に要望

三月末に開業し住民から便利になって喜ばれている日暮里・舎人ライナーについて、日本共産党足立区議団は、利用者などから新たに提出されている要望を持って六月五日東京都交通局長に要望しました。去る五月一八日日の始発電車の事故のことでは、幸い職員がいたので乗客が線路上を歩いて退避しましたが、事故の原因や対応について、7月以降も安全対策要員を配置することを要望しました。また乗客が増えラッシュ時にすべての車輛に乗り切れない問題では、座席の改善、つり革を増やす、始発電車の繰り上げ、増発をの要望に、交通局電事部長らは「要望を受け止め検討する」と約束しました。

新! 平成20年第2回足立区議会定例会会議日程

足立区議会事務局

月	日	曜	午前	午後
-10	火			本会議 1時
-11	水			本会議 1時
-12	木			本会議 1時
-13	金		総務委員会(特別委員会) 10時	区民委員会(第3委員会) 1時30分
-14	土			
-15	日			
-16	月		産業環境委員会(第1委員会) 10時	
-17	火		議会運営委員会(第2委員会) 10時 各派幹事長会(第2委員会) 10時30分	本会議 1時
-18	水		厚生委員会(第3委員会) 10時	
-19	木		建設委員会(第3委員会) 10時	文教委員会(第3委員会) 1時30分 [会期中断日]
-20	金		交通・都市基盤整備調査特別委員会(第3委員会) 10時	公共施設更新・再配置調査特別委員会(第3委員会) 1時30分
-21	土			
-22	日			
-23	月		高齢化対策調査特別委員会(第3委員会) 10時	観光振興調査特別委員会(第3委員会) 1時30分
-24	火		議会運営委員会(第2委員会) 10時 各派幹事長会(第2委員会) 10時30分	
-25	水			本会議 1時

ご意見ご要望をおよせください 電話3880-5770 区控え室



住み続けられる団地に

花畑団地の居住者アンケートから

「今後も住み続けたい」は80.2%

昨年末、UR・都市再生機構は十年間で八万戸の住宅を削減するなどを内容とした「UR賃貸住宅ストック再生・再編計画」を発表し、そのまま残す団地と、「集約化」して残地を民間に売却する団地などに仕分けする「方針」を進めています。URの花畑団地の計画は、『団地再生（一部建て替え）複合型』（2725戸）です。

今年二月にURが実施した花畑団地居住者のアンケート結果は、六五歳以上が六三・七％、一人から二人の世帯は七四・八％、再生街区（事業ブロック）となった場合「団地内住戸に住み続けたい」は六三・八％、改善街区（継続ブロック）となった場合「今後とも住み続けたい」は八十二・二％、団地外に転居の場合「機構の他の団地に転居したい」六七・二％と回答しています。

「意見」では、「年金生

UR都市再生機構は居住者に十分な説明しないまま団地再生へ検討を本格化

活なので民間、アパートは高く

て住めない」など都営住宅の入居希望または都営住宅併設の要望が強く出されています。また「今後とも住み続けるには家賃の問題があります」と、家賃問題が大きな課題となっています。

「高齢者専用賃貸住宅が不足している」との声は約五割を示し、「総合病院」の不足は五一・九％と要望が強くなっています。

URは花畑団地を三つのゾーンに分けると提示

URは、中層住宅地区を①建て替え対象地区 ②少子化高齢者施設等誘致地区 ③移転を余儀なくされた居住者の受け皿地区の三つのゾーンに分けると提示しています。

具体的な構想は今年秋にと住民に説明

UR都心支社の担当者は「今年秋に実施したアンケートを踏まえて今年秋にはどのブロックが一部建て替えや施設誘致地区にな

花畑団地に長年住んできました。機構の勝手な都合で九年間も入居者を募集しない、修繕はしない、なんてひどすぎます。年金暮らしで家賃の値上げは困ります。若い人を入居させて活性化してもらいたい。公共住宅として「住み続けたい」です。（居住者・七四歳）

ところがURは、七月中旬に業務委託し作業始めると一部報道

ところが、UR都市機構東京都心支社は、団地再生事業に向けた検討を本格化するとし、「建て替え・改善や余地など整理」「七月中旬に業務委託して作業始める考え」「花畑団地に係わるまちづくり計画（案）検討業務。現在、簡易公募プロポーザルによるコンサルタントの選定手続き中だ」（健通新聞）6月2日付け「一面トップで報道」しています。また、五月二日付けの「ザニュー・キイ」（公団住宅の専門誌）の報道は「ストック再生、花畑」でURと自治会、足立の三者が初の懇談会」と見出しをつけたニュースでは、

近藤足立区長とUR住宅経営・建替え担当理事、花畑団地自治会長の三者が懇談し「三つのゾーンとも従来にない考え方を導入して再生していく予定」と報じています。

成二十三年度までに耐震改修等を実施する」、五号棟以外の棟は「今後順次対応方針を決定し、計画的に実施する」としています。居住者から「空家に若い人も入居させて欲しい」の要望には「空家一〇〇〇戸を全部うめる考えはない。若い人は新しく建設した所に（家賃は高くなる）入ってもらいたい」と言っています。

安心して住み続けられる花畑団地・UR団地にするために

私（伊藤和彦）は、昨年十二月の本会議、今年三月の予算委員会でも花畑団地の建替え問題を取り上げてきましたが、かつての住宅公団から都市再生機構へ変貌し、新規入居者の募集を停止、計画修繕が行われなまま現在にいたっています。

政府のすすめる「構造改革」路線から「居住者の暮らしと住まいを守る」たたかいを強めるとともに、①要求を結果し自治会がその役割を果たすこと。②団地の点検活動とURへの交渉・要請行動をすること。③当面、「家賃値上げ凍結」「修繕の要望実現」「住民のまちづくり」などの運動を住民とともに考え、行動していきたいと考えています。

「URは、中層住宅地区を①建て替え対象地区 ②少子化高齢者施設等誘致地区 ③移転を余儀なくされた居住者の受け皿地区の三つのゾーンに分けると提示しています。」

またURは、団地の1号棟から11号棟まで耐震診断の結果を明らかにして、5号棟は「平